

水稻栽培の低コスト・省力化と 収量安定化の両立

キーワード 水稻, 育苗技術, 肥培管理



■ 研究概要

農業従事者の減少、食料生産に対するエネルギー投入量の増加が問題となり、作業の省力化・低コスト化が強く求められています。一方で、気候変動による農業生産性への影響が拡大しており、高温による登熟不良、低温による冷害、日照不足による生育障害など様々な環境要因が、水稻の生産を不安定化させています。水稻栽培の低コスト・省力化と収量安定化の両立を目指して、作物学、土壌肥料学、植物栄養学の面から研究をおこなっています。

・高密度播種育苗技術での水稻生産の安定化

高密度播種育苗技術（密苗）は育苗箱あたりの播種量を増やすことで、移植に使用する育苗箱の数を劇的に減らすことができます。密苗の課題を明らかにし、安定生産に向けた栽培技術の開発を目指しています。

密苗の根の発達は他の苗より遅れ気味？→

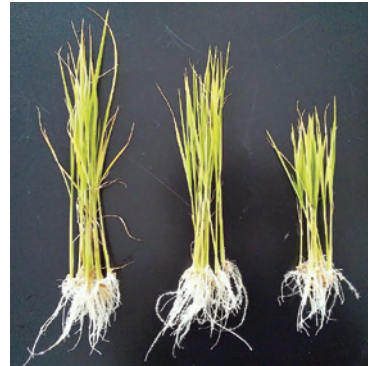


図 中苗（左）、稚苗（中央）、密苗（右）の発根力の比較

■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・ 可給態リン酸の評価など、土壌肥沃度について評価します。
- ・ 作物の地上部と地下部の生育を評価します。
- ・ 最近、アフリカのイネの研究もはじめました。

茄子川 恒 助教 NASUKAWA, Hisashi

専門分野：作物学

E-mail : hnasukawa@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

